

関西学院大学大学院文学研究科の組織改編(博士課程前期課程、後期課程の10専攻を廃止して3専攻を設置する)の趣旨及び特に設置を必要とする理由

目 次

I. 文学研究科組織改編の趣旨及び必要性	
1. 組織改編の背景－関西学院大学文学部・文学研究科の沿革－ P. 1
2. 文学研究科の組織改編の必要性 P. 2
II. 前期課程と後期課程の同時設置を必要とする理由 P. 3
III. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	
1. 専攻及び領域 P. 4
2. 授与する学位 P. 5
3. 研究科、専攻の英訳名称 P. 5
IV. 教育課程の編成の考え方及び特色	
1. 教育・研究の目的とその特色 P. 6
2. 教育課程とカリキュラム構成 P. 6
1) 教育課程の基本理念	
2) 教育課程の編成と特色	
3) カリキュラムの編成	
V. 教員組織の編成の考え方及び特色 P. 7
VI. 履修指導、研究指導の方法及び修了要件	
1. 前期課程における研究指導 P. 8
2. 後期課程における研究指導 P. 8
VII. 施設・設備等の整備計画	
1. 講義室、演習室 P. 9
2. 教授室、研究室 P. 9
3. 実験室 P. 9
4. 図書 P. 9
5. 図書室 P. 9
VIII. 既設の学部(修士課程)との関係 P. 9
IX. 入学者選抜の概要	
1. 定員 P. 10
2. 学生の選抜方法 P. 10

X. 文学研究科 総合心理学専攻の大学院設置基準第14条による教育方法の特例－社会人を対象とした大学院教育－	
1. 標準修業年限の特例	P. 12
2. 履修指導の方法	P. 12
3. 授業の実施方法	P. 12
4. 教員の負担の程度	P. 12
5. 図書館・情報処理施設等の利用方法	P. 13
6. 学生の厚生に対する配慮	P. 13
7. 職員の配置	P. 13
8. 入学者選抜の概要	P. 13
X I. 自己点検・評価	P. 13
X II. 情報の提供	P. 14
X III. 教員の資質の維持向上の方策	P. 14

関西学院大学大学院文学研究科の組織改編(博士課程前期課程、後期課程の10専攻を廃止して3専攻を設置する)の趣旨及び特に設置を必要とする理由

I. 文学研究科組織改編の趣旨及び必要性

1. 組織改編の背景－関西学院大学文学部・文学研究科の沿革－

関西学院大学は1889年(明治22年)、アメリカ南メソジスト監督教会の宣教師 W.R.ランバスによって創設され、神戸の東にある「原田の森」に神学部と普通学部が設けられたことを始まりとする。当時の関西学院憲法に「本学院ノ目的ハ、基督教ノ伝道ニ従事セントスル者ヲ養成シ、且ツ基督教ノ主義ニ拠リテ日本青年ニ智徳兼備ノ教育ヲ授クルニアリ」と記すように、キリスト教主義による人格教育を教育目標とした。やがて1912年(明治45年)の高等学部(文科及び商科)開設時に、第4代院長 C.J.L. ベーツがヨハネ福音書の一節を引用しながら説いた「Mastery for Service(奉仕のための練達)」をスクールモットーとして、今日まで100余年に及ぶキリスト教主義教育の歴史と伝統を刻んできた。その後1915年(大正4年)に、文科に哲学科・英文学科・社会学科を置き、1921年(大正10年)には、高等学部文科を文学部(哲学科・英文学科・社会学科)に改編し、1929年(昭和4年)にはキャンパスを現在の西宮市上ヶ原に移した。

1932年(昭和7年)の大学令により大学に昇格し、これに応じて1934年(昭和9年)に法文学部が設置され、文学部には哲学専攻・倫理学専攻・心理学専攻・宗教学専攻・社会学専攻・英文学専攻の6つの専攻が置かれた。文学部は1942年(昭和17年)に国文学専攻を加えて7専攻となり、1948年(昭和23年)の新制大学発足に際して、哲学科・心理学科・社会学科・国文学科・英文学科、及び旧神学部と宗教学専攻を継承合同する神学科と、倫理学専攻を転換する教育学科、全体で7学科を擁する文学部として再出発した。さらに1951年(昭和26年)に史学科、1952年(昭和27年)に美学科と社会事業学科、1959年(昭和34年)にドイツ文学科を増設する一方で、1952年(昭和27年)には神学科を神学部として、1960年(昭和35年)には社会学科・社会事業学科を社会学部として独立させた。1963年(昭和38年)にフランス文学科が開設され、哲学科・美学科・心理学科・教育学科・史学科・日本文学科・英文学科・フランス文学科・ドイツ文学科の9学科体制となり、1965年(昭和40年)には史学科内に日本史学・西洋史学に加えて東洋史学・地理学の領域が置かれた。

学部体制の充実が着実に行われるなか、大学院については、1950年(昭和25年)に文学研究科(修士課程)が設置されて哲学専攻・心理学専攻・英文学専攻の3専攻が置かれたが、以後、1951年(昭和26年)には聖書神学専攻(翌年に神学研究科として独立)・社会学専攻(後に社会学研究科として独立)・日本文学専攻、1952年(昭和27年)に教育学専攻が増設された。1954年(昭和29年)に博士課程が設置され、哲学専攻・心理学専攻・英文学専攻・日本文学専攻が置かれ、修士課程には美学専攻(博士課程は1961年(昭和36年)に設置)・西洋史学専攻(博士課程は1956年(昭和31年)に設置)が加えられた。さらに1961年(昭和36年)に日本史学専攻(博士課程は1963年(昭和38年)に設置)、1963年(昭和38年)にドイツ文学専攻(博士課程は1965年(昭和40年)に設置)、1967年(昭和42年)にフランス文学専攻(博士課程を同時設置)が置かれ、1973年(昭和48年)には東洋史学・地理学がそれぞれ日本史学専攻・西洋史学専攻内に併設された。なお、1976年(昭和51年)以降、修士課程は博

士課程前期課程、博士課程は博士課程後期課程と呼ばれることになった。

そして、1998年(平成10年)には大阪梅田キャンパスにおいて夜間開講プログラムをも行う学校教育学が教育学専攻内に設けられ、現在に至っている。

文学部は、2003年(平成15年)に大幅な組織改編を行い、旧来の9学科から3学科13専修となった。その内容は、文化歴史学科(哲学倫理学専修・美学芸術学専修・地理学地域文化学専修・日本史学専修・アジア史学専修・西洋史学専修)、総合心理科学科(心理学専修・教育心理学専修・臨床教育学専修)、文学言語学科(日本文学日本語学専修・英米文学英語学専修・フランス文学フランス語学専修・ドイツ文学ドイツ語学専修)で、グローバル化の進展にとまなう、学際的で広い視野を持った人材の育成を果たすため、深い教養と高い専門的知識の総合をめざす教育課程のもと、2006年度(平成18年度)に完成年度を迎えている。

2. 文学研究科の組織改編の必要性

2003年度(平成15年度)から行われた文学部の改編は、学科それぞれの編成を専門領域に特化せず、今後予想される学問領域の新たな展開や再編に即応できる包括的で柔軟な組織形態であること、そして新カリキュラムを通して学科間の共同と協力を活性化し、関連専門領域の相互交流を実現すること、を主たる目標として進められた。改編後3年を経た現在、文学部では教育・研究の新たな発展と組織全般の柔構造化に向けて着実に実績を残しつつ、これをさらに発展させるための努力が継続されている。

文化歴史学科、総合心理科学科及び文学言語学科の教育と研究は、真・善・美の価値を担う人間存在の様態とその基礎的構造の解明、現代社会における人間の在るべき形や病理の科学的検証、言葉を持ち言葉の上に文化を形成する人間存在の文学的言語学的視点からの解読をそれぞれ主たる目的としているが、改編後の文学部では、学生が幅広い関心のもとに専攻を選択するとともに、複数の研究領域を横断的に学びつつ学際的領域に参入できる機会をも積極的に提供してきた。

新しい体制のもとで研鑽を積んだ学生は2006年度(平成18年度)に卒業年度を迎えることになる。学部教育で修得した幅広い知識を生かし、引き続きさらに高度な研究を続けようとする学生に対しては、一層深い専門性に根ざした教育・研究の場が提供されなければならない。そうした必要に応えるべく、文学研究科においても、学部における3学科13専修を基礎とした改編が求められている。

ここに文学研究科の現在の10専攻を廃止し、新たに3専攻を設置し、各専攻のもとに学部において専修の名で呼ぶ履修コースを、領域の名称をもって配置する。すなわち、文化歴史学専攻には哲学倫理学領域・美学芸術学領域・地理学地域文化学領域・日本史学領域・アジア史学領域・西洋史学領域の6領域、文学言語学専攻には日本文学日本語学領域・英米文学英語学領域・フランス文学フランス語学領域・ドイツ文学ドイツ語学領域の4領域を置き、総合心理科学専攻については学部の専修に対応した心理学領域・教育心理学領域・臨床教育学領域に加えて、1998年(平成10年)に教育学専攻内に設けた学校教育学領域(前期課程のみ)を加えた4領域とする。【資料1】

文学部では、人間存在とその営為をさまざまな視点から検証・解明するための専門的能力を涵養し、現代社会を理解するための幅広い視点と教養及びその基礎としての豊かな人間性の

獲得を重視して教育・研究を進めてきたが、とりわけ 2003 年度(平成 15 年度)の改編後はこの伝統をさらに発展させ、幅広い教養と専門的な知識を併せ持ち、包括的な洞察力を身につけた人材を育成してきた。こうした教育・研究の基本理念を継承しつつ、文学研究科においては、より専門性の高い少人数教育と、学生個々人の創意工夫や斬新な発想に基づく研究を基軸とし、学生相互の、あるいは学生と教員との切磋琢磨によって、学部において培われた幅広い知識のさらなる深化と特化を実現するとともに、研究者をはじめとして、高度の学術的知見と教養を具現した高度専門職業人及び知識基盤社会を支える人材を育成していく。【資料 2】

今後、日本は知識基盤社会へと移行し、それを支える人材の養成が求められるであろう。これに伴って、学部生の大学院に対する関心もさらに高くなることが期待される。社会や学生の期待に添う高度な専門教育及び研究を実現するためにも、学部と連動した大学院の体制へと改編し、学部から大学院へ進学する環境を整備する必要があると判断される。

大学院の組織を改編し、学部・大学院のカリキュラムの連携を実現することで、学部教育を基礎におきながら、より高度な専門教育の充実をはかることが可能となる。これにより、それぞれの学術領域に大きな貢献をなしうる専門的研究者の養成、高い学識を身につけて専門職に従事する高度専門職業人の養成、あるいは高度な知識をもつ一般職業人の養成などを行う機関としての役割を確実に果たすことが確信される。

このことは在学生へのアンケート結果からもうかがえる。アンケートは 2006 年(平成 18 年)1 月、文学部に所属する学生 324 人に対して行った。そのうち、大学院について「関心がある」と答えた学生は 68 人(20.9%)、また「今はわからないが関心をもつかもしれない」と答えた学生が 112 人(34.5%)に及んだ。さらに「大学院に何を求めるか」の問いに対しては、「専門的研究者の養成」が 147 人(45.4%)と半数近くに達し、次いで「教員や学芸員などの高度専門職業人の養成」82 人(25.3%)、「高度な知識をもつ一般職業人の養成」72 人(22.2%)、「社会人の再教育」5 人(1.5%)、「その他」17 人(5.2%)となった。在学生からは、大学院が専門的研究者や高度専門職業人を養成する機関として期待されていることが明らかである。さらに専門性だけではなく、高度な知識をもつ一般職業人を養成することも少なからず望まれている。

また、社会人の再教育については、総合心理学専攻学校教育学領域において、現職教員を中心とした社会人の受け入れを積極的に行い、担当分野のみならず、学校教育現場での知識と理解を持つ教員養成に貢献してきたが、今後もこれを継続していく。さらに文学研究科として、今次の改編を機に、従来の国語・英語・社会(中学校)・地歴・公民(高等学校)に加えて、フランス語とドイツ語の教育職員専修免許状取得を可能とし、教育に携わる人材を生み出していく。

以上のように、専門性豊かな高度教養人の育成によって広く社会の要請に応えつつ、教員、博物館学芸員、心理学関係の専門職員などを育て、さらには博士課程後期課程での専門教育によって新しい世代の研究者を育てることも可能となる。

II. 前期課程と後期課程の同時設置を必要とする理由

文学研究科は 1950 年(昭和 25 年)の設置以降、文学部の学科に対応して専攻を増設、現在では 10 専攻を擁するまでに発展し、その過程で優秀な人材を輩出してきた。そうした教育・研究の場で前期課程と後期課程(学校教育学は除く)の学生は研究室を共有し、有益な情報

を交換しあいながら、教育・研究において極めて良好な環境を構築してきた。さらに前期課程と後期課程の学生は、積極的にそれぞれの研究演習にも参加し、新風をもたらす瑞々しいオブザーヴァーとして、また豊富な経験と知識に基づく良きアドバイザーとして、望ましい形の刺激と影響を互いに与えながら研究を進めている。

改編後の体制は従来の 10 専攻が育んできた教育及び研究のあり方を引き継ぐもので、これまで基軸としてきた前期課程と後期課程の指導体制を維持しつつ、両課程の学生をさらに広い視野の中で育成していくことになる。

以上の理由により、この度、博士課程前期課程を 3 専攻 14 領域、博士課程後期課程については学校教育学領域を除く 3 専攻 13 領域の体制に同時に改編することが、教育・研究上、最も安定した形であると判断した。

Ⅲ. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

1. 専攻及び領域

文学部は、すでに 2003 年(平成 15 年)4 月、旧来の 9 学科を 3 学科(文化歴史学科・総合心理科学科・文学言語学科)に組織改編しており、2006 年度(平成 18 年度)に設置完成年度を迎えている。このなかで専門分野の継続性を重視して学生を速やかに前期課程へと導き、さらに高い次元の専門教育及び研究を行う体制を実現するため、文学研究科を現行の 10 専攻から 3 専攻(文化歴史学専攻・総合心理学専攻・文学言語学専攻)へと改編する。

3 専攻はすべて文学部の学科に対応し、各専攻はそれぞれ複数の領域から構成される。各領域は、学校教育学領域を例外として、その他はすべて文学部における専修に対応している。

①文化歴史学専攻

文化歴史学専攻は、現行の哲学専攻・美学専攻・西洋史学専攻・日本史学専攻の 4 専攻を母体としており、真・善・美の価値を担いつつ、空間と時間に生きる人間存在の基礎的構造及び歴史について高度な教育・研究を行うことを目的とする。文化歴史学専攻を構成する専門領域として哲学倫理学領域・美学芸術学領域・地理学地域文化学領域・日本史学領域・アジア史学領域・西洋史学領域の 6 つの領域を置く。なお、地理学地域文化学領域とアジア史学領域は、文学部の専修に対応するとともに、現行の西洋史学専攻と日本史学専攻のなかでそれぞれ行われている教育・研究を、個別の専門領域として継承するものである。

②総合心理学専攻

総合心理学専攻は、現行の心理学専攻・教育学専攻の 2 専攻を母体としており、現代社会に生きる人間存在について、認知・行動・発達・陶冶の観点から、そのあり方や病理を含めて高度な教育・研究を行うことを目的とする。総合心理学専攻を構成する専門領域として心理学領域・教育心理学領域・臨床教育学領域・学校教育学領域(前期課程のみ)の 4 つの領域を置く。なお、教育心理学領域と臨床教育学領域は、文学部の専修に対応しており、現行の教育学専攻のなかでそれぞれ行われている教育・研究を、個別の専門領域として継承するものである。また、学校教育学領域は、学部の専修にはないが、現行の前期課程の教育学専攻に開かれている昼夜開講コースを、個

別の専門領域として継承するものである。

③文学言語学専攻

文学言語学専攻は、現行の日本文学専攻・英文学専攻・フランス文学専攻・ドイツ文学専攻の4専攻を母体としており、言葉を持ち文化を形成する人間存在の営為について、文学的言語学的視点から高度な教育・研究を行うことを目的とする。文学言語学専攻を構成する専門領域として日本文学日本語学領域・英米文学英語学領域・フランス文学フランス語学領域・ドイツ文学ドイツ語学領域の4つの領域を置く。

前期課程では、各領域の学術分野を深化させるとともに、高度で知的な学識を涵養することができるよう、複数の専攻や領域にわたる幅広い履修を可能とするカリキュラムを整備する。後期課程では、各領域の学術分野をさらに深化させるとともに、博士論文作成演習を中心として、課程博士の育成を最重要の目標として設定する。なお、文学言語学専攻の前期課程と後期課程には、文学部において行われている学科専修横断プログラムである広領域・言語科学コースを発展させ、領域横断的な演習科目である言語科学研究演習を設置することによって、個別言語に特化しない包括的で柔軟な言語学研究の方途を確保する。

2. 授与する学位

博士課程前期課程は、研究演習 8 単位と選択科目 24 単位の合計 32 単位を修了要件としこれを満たした学生には個別に審査委員会を設置し、口頭試問を行い、その報告を受けた研究科委員会の議を経て、修士の学位を授与する。

博士課程後期課程は、研究演習及び博士論文作成演習(12単位)の修得を修了要件とし、これに特別研究(研究指導)を加えることによって課程博士取得のための研究指導を行う。

博士論文計画書の認定を受けて、研究演習から博士論文作成演習での研究指導に移行する。博士論文を提出したものについては、個別に審査委員会を設置し、口頭試問を行い、その報告を受けた研究科委員会で審議し、さらに大学評議会での議を経て博士の学位を授与する。

修士及び博士の学位に付記する専門分野の名称は、改編前の 10 専攻のものを引き継ぎ、改編後の 3 専攻の領域に該当させる。【資料 3】

(なお、ここにみる研究演習や選択科目などのカリキュラム全体編成については、「IV. 教育課程の編成の考え方及び特色」「2. 教育課程とカリキュラム構成」「3)カリキュラムの編成」に説明している。)

3. 研究科、専攻の英訳名称

文学研究科 (Graduate School of Humanities)

専攻 (Graduate Department)	
文化歴史学専攻	Graduate Department of Culture and History
総合心理科学専攻	Graduate Department of Integrated Psychological Sciences
文学言語学科専攻	Graduate Department of Literature and Linguistics

IV. 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育・研究の目的とその特色

関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service(奉仕のための練達)」及び人文科学の深い学識に裏付けられた人格の陶冶と、卓抜した水準における学術研究を通じた社会への貢献を目的とする。そのためには、人文科学の領域において、現代世界の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、その成果を学界、教育界、一般社会に還元することが必要である。具体的には、それぞれの学術領域に大きな貢献をなしうる専門的研究者を養成すること、高い専門性を活かして実社会の様々な場面で活躍することのできる高度専門職業人を養成すること、そして知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成すること、のおのおのを重視する。【資料 4】

後期課程では、高度な研究の継承と推進を行う博士号を持つ優れた研究者の養成を目的とする。前期課程では、後期課程に連携する研究者養成の第一段階と位置づけると同時に、高い学識と豊かな創造性を身につけて社会に貢献できる人間の育成と、多様化する社会の要請に応えた社会人の再教育機関としての役割を重視する。同時に前期課程では、中等教育に優れた教育能力をもつ教員を提供できるよう、中学校及び高等学校の教育職員専修免許状の取得を可能とする。

以上の目的を実現するため、今次の改編では、専門性の深化と幅広い学識の涵養をともに実現できる柔軟な組織を整備するとともに、学部・前期課程・後期課程の縦の連関と、専攻間及びその下位の単位である領域間を繋ぐ横の連関とを、あわせて可能にするカリキュラムを実現する。

2. 教育課程とカリキュラム構成

1) 教育課程の基本理念

本研究科における、教育課程の基本理念は以下に掲げるとおりである。

- ① 当該領域における高度な専門的知識を授与する。
- ② 独創的で水準の高い研究を遂行する能力を涵養する。
- ③ 専門性の枠に留まらない研究成果の社会的還元を促し、あわせて高度専門職業人の養成も視野に収める。
- ④ 幅広い学問的関心と高い見識を持ち、知識基盤社会を支える人材を育成する。

2) 教育課程の編成と特色

具体的な教育課程の編成と特色は以下のとおりである。

- ① 学部教育との間に一貫性のある円滑な連携を実現する。
- ② 教育課程及びカリキュラムは、従来の専攻を単位としたあり方を継承し、新たに設ける 3 専攻 14 領域を単位として編成する。
- ③ 各領域における専門教育及び研究の核として研究演習を位置づけ、これを中心として教育指導体制を構築する。
- ④ 領域ごとに、理念達成のために必要な科目を十分に、かつバランスよく設置する。
- ⑤ 必要に応じて、複数の領域に共通する科目を設置する。

⑥専門を越えた学際的な関心に対応できる柔軟な履修が可能な体制とする。

⑦文学部に設置された広領域・言語科学コースに対応して、文学言語学専攻に言語科学研究演習を設置する。

今次の改編を通じて、文学部における学科・専修と文学研究科における専攻・領域を一致させることにより、学部教育と大学院における教育・研究との間の、さらなる円滑な連携を確保する。なお、学問的特性や教育理念の多様性に対応した、旧来の専攻を単位とする科目編成については、基本的には各領域の独自性を維持しながら、同時に全体的な視野からの教育課程の見直しを行い、領域間のカリキュラム設定のバランスをはかる。さらに、従来から行われてきた領域を越えた自由な履修制度を維持するとともに、領域間に共通する科目の設置も想定し、幅広い学問的関心に対応できる体系を構築する。

3) カリキュラムの編成

カリキュラムの編成にあたっては、学部での幅広い教養を基礎に深い専門性を涵養し、さらに博士課程後期課程に進学する者には一貫した研究が推進できることを念頭に置く。

①博士課程前期課程の編成

カリキュラムは、必修科目の研究演習とその他の選択科目から構成される。各領域における研究演習は、それぞれの専門分野における高度な学術知識の修得と、修士論文作成のための研究指導を目的とした科目である。選択科目は、それぞれの領域に対応した専門知識や研究リテラシーの修得を目的とした授業科目であり、複数の領域を横断する科目を設定するとともに、一部の領域では実験や実習を含む。また、一部の領域では学部と前期課程に共通する授業科目を設置する。

②博士課程後期課程の編成

必修科目の研究演習及び博士論文作成演習から構成される。研究演習を通じた研究指導から開始して、博士論文計画書の認定を経たのち、博士論文作成演習を通じた研究指導に移行することによって、博士学位取得に至る過程を確実なものとする。

V. 教員組織の編成の考え方及び特色

文学研究科の専任教員は、文学部の助手(2007年度(平成19年度)より助教と改称)を除く専任講師・助教授(2007年度(平成19年度)より准教授)・教授の職位にあつて、文学研究科委員会が大学院教員として認めた教員、及び大学に設置された教職教育研究センターの専任講師以上の職位にあつて、文学研究科委員会が大学院教員として認めた教員をもって構成する。

それぞれの教員は、専攻及び領域を通じて教育・研究に従事する。研究指導の中心は指導教授による研究演習(博士課程後期課程においては博士論文作成演習を含む)となるが、これに大学院教員の担当する特殊講義科目や研究科目・実験実習科目が複合し、さらに博士課程後期課程においては特別研究(研究指導)が加えられ、個別指導をも含む、教員の専門分野を生かした複合的にして重層的な指導が行われる。

さらに、一部に領域や専攻を横断する科目を設置して、新しい教育・研究の可能性を追求

すると同時に、各学術領域のさらなる深化・拡張・活性化をはかっていくことになる。

VI. 履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1. 前期課程における研究指導

新年度開始時に、前期課程入学者全員を対象とする履修説明会を実施し、これを受けて学生は入学時に指導教員を選び、指導教員は研究演習を通じて修士論文の作成を指導する。指導教員は授業担当のほか、面談等の個別の方法を通じて適切な指導と助言を行う。また、学生は他の研究演習の受講を通じて、指導教員以外の教員による教育指導を受けることができる。授業科目の履修に際して、学生は指導教員と相談のうえで履修登録すべき科目を決定し、計画性をともなった研究の実現をめざす。

修了要件は、研究演習 8 単位と選択科目 24 単位の合計 32 単位とする。

各専攻(領域)における履修モデルを別に掲げておく。【資料 5】

2. 後期課程における研究指導

後期課程における学生への指導は、演習科目(研究演習・博士論文作成演習)と特別研究によって行われる。

修了要件は、必修科目の「研究演習」(博士論文計画書が認められた場合は「博士論文作成演習」)12 単位とする。

各専攻(領域)における履修モデルを別に掲げておく。【資料 5】

演習科目は、課程博士の育成を確実なものとするを目的とし、現行の博士学位取得基準を継承する。すなわち研究の順調な進捗を前提として、学生は第 1 学年度後半(4 月入学の場合の秋学期)に博士論文計画書を提出し、承認が得られれば、第 2 学年度から博士論文作成演習を履修して博士論文作成にかかわる指導を受ける。第 2 学年度末には、博士予備論文を提出することができ、その審査に合格したものが博士論文の提出資格を得る。なお、博士論文の提出に際しては、審査制度のある学術専門誌に発表論文のあることなどを要件とする。

特別研究は、後期課程指導教員のみならず、広く大学院教員の指導をも受けられるよう配慮したもので、指導教員の承認のもとで、学生は前期課程の特殊講義科目・研究科目及び演習科目に出席し、さらには指導教員以外の教員からも個別指導を受けることによって、研究手法やその展開において、有意義な成果を得ることができる。またこれに応じて、専攻分野の関係から、必要に応じて複数の教員が指導にあたることができるよう、副指導教員の制度を設ける。

以上のような演習科目と特別研究によって、学生が後期課程の 3 年間で課程を修了し博士学位を取得するための研究指導体制が確立されている。【資料 6】

VII. 施設・設備等の整備計画

文学研究科の教育・研究を支える施設・設備は、本学西宮上ヶ原キャンパス文学部本館、新館、ハミル館及び講義棟F号館に所在する。【資料 7】

1. 講義室、演習室

講義は文学研究科専用の文学部新館 1 号教室 (38.15 m²:18 席)、2 号教室 (38.22 m²:18 席)、3 号教室 (52.88 m²:24 席)、4 号教室 (57.72 m²:24 席)において行う。

2. 教授室、研究室

教授室は全ての専任教員にそれぞれ 1 室 (16.2 m²から 18.0 m²)用意されており、研究計画指導、論文作成指導等の個別指導が行われる。また、分野ごとの共同研究室 (26.18 m²から 109.87 m²)及び副室 (14.31 m²から 20.66 m²)においてもこれを行う。

3. 実験室

総合心理学専攻の実験実習を取り入れた講義等は、講義棟F号館地下1階の各実験室 (6.0 m²から 21.6 m²)、観察室 (7.8 m²から 20.1 m²)及び文学部ハミル館の各実験室 (9.72 m²から 19.44 m²)において行う。

4. 図書

地下 2 階地上 3 階の規模で、図書資料類の収容能力が約 160 万冊の大学図書館を中心に、文学研究科内においても各共同研究室に該当分野の図書・研究雑誌を配架し、現状においても問題はないが、今後とも新規の図書・研究雑誌の購入計画を策定している。【資料 8】また、図書については文学部・文学研究科の予算において「教育研究関係」「図書学術情報」の費目で、3 専攻 14 領域 (学部の 3 学科 13 専修と共用:なお、総合心理学専攻学校教育学領域は除く)に割り振られ、領域の選択による図書購入が可能であり、さらに図書館図書費から文学部による選択可能な予算の配分を受けている。

長年にわたる予算的裏づけもあって主要な研究雑誌はこれをほぼ網羅している。【資料 9】また外国語雑誌については、3 年ごとに継続見直し調査を行う一方で、年度ごとに新規雑誌購入の便がはかられ、新たな研究展開に対応するためのシステムが構築されている。

5. 図書室

本研究科の学生が主として利用する図書室は、西宮上ヶ原キャンパスの大学図書館である。大学図書館は、授業期間中、平日は 8 時 50 分から 22 時まで、土曜日は 8 時 50 分から 18 時 30 分まで、日曜日は 12 時から 18 時まで利用可能である。その他に文学部本館及び新館に、分野ごとに共同研究室を設け、図書の閲覧及び自学自習に供している。

VII. 既設の学部(修士課程)との関係

今次の改編は、2003 年度 (平成 15 年度)における文学部改編の完成年度を受けたもので、学部における 3 学科 (文化歴史学科・総合心理科学科・文学言語学科)を基盤に、3 専攻 (文化

歴史学専攻・総合心理学専攻・文学言語学専攻)とするもので、専攻内における領域も学部における専修の名称を引き継ぐものとなる。なお、総合心理学専攻博士課程前期課程学校教育学領域は、大学院のみの組織である。【資料 10】

Ⅷ. 入学者選抜の概要

1. 定員

入学定員及び収容定員は次のとおりである。

【入学定員】単位：人

	前期課程	後期課程
文化歴史学専攻	22	7
総合心理学専攻	20	6
文学言語学専攻	22	7
合計	64	20

【収容定員】単位：人

	前期課程	後期課程
文化歴史学専攻	44	21
総合心理学専攻	40	18
文学言語学専攻	44	21
合計	128	60

2. 学生の選抜方法

大学院入学者の選抜は、大学院入学試験を通じて行う。正規学生は一般入学試験及び推薦入学試験によって選抜する。また、社会人及び外国人は特別学生として、特別学生(社会人)入学試験と特別学生(外国人)入学試験によって選抜する。それぞれの入学試験は、前期課程が第1次(9月)と第2次(3月)の2回、後期課程は3月に実施する。

試験概要等は次のとおりである。

	前期課程			後期課程		
	試験概要	募集人員	入試時期	試験概要	募集人員	入試時期
正規学生(一般)	専門外国語・専門基礎科目・専門科目及び面接試験	合計 64人	第1次 9月 第2次 3月	専門外国語・専門科目及び面接試験	合計 20人	3月
正規学生(推薦)	専門外国語及び面接試験			面接試験		
特別学生(社会人)	専門外国語・専門基礎科目及び面接試験			専門外国語・専門基礎科目及び面接試験		
特別学生(外国人)	専門外国語・専門基礎科目及び面接試験			専門外国語・専門基礎科目及び面接試験		

入学試験においては、優れた学生を受け入れることができるように広く門戸を開く。

前期課程の正規学生(一般)入学試験では、他大学、他大学院の学生や外国において一定期間の学校教育を修了した者、大学卒業者と同等以上の学力があると本研究科において認められた者など、後期課程の正規学生(一般)入学試験では修士学位と同等以上の外国の学位を有する者や修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認められた者などにも受験資格を与える。

前期課程の正規学生(推薦)入学試験では、第1次入学試験(9月)で優れた学修成果をもつ本学文学部の学生を、第2次入学試験(3月)で優れた卒業論文を提出した文学部の学生を、それぞれ推薦、選抜する。また、後期課程の正規学生(推薦)入学試験では修士論文を含む優れた研究成果をもち、研究者となるにふさわしい意志と能力をもつ学生を推薦、選抜する。

特別学生(社会人)入学試験では、卒業または修了資格とともに一定期間以上の社会的経験を有する者、あるいはそれと同等以上の学力と社会的経験を有する者に受験資格を認める。

特別学生(外国人)入学試験では、外国籍を有して外国で学校教育の必要な課程を修了した者、あるいはそれと同等以上の学力を有する者に受験資格を認める。

なお、社会人と外国人の特別学生については、入学後2学期を経過してのち、学修の成果に応じて正規学生への身分変更を可能にする制度を整えている。

X. 文学研究科 総合心理学専攻の大学院設置基準第14条による教育方法の特例－社会人を対象とした大学院教育－

文学研究科総合心理学専攻(学校教育学領域)における教育は、次のとおり3つの形態により行われる。

- ① 総合心理学専攻のうち、大学新卒者とともに現職教員を中心とする社会人を対象に入学させる学校教育学領域(博士課程前期課程)は、働きながら学ぶことを可能にするため、平日夜間及び土曜日に授業科目を開講する。
- ② 総合心理学専攻学校教育学領域の学生は、所属する専攻及びその他の専攻(文化歴史学専攻・文学言語学専攻)で昼間に開講される授業科目を選択して履修することができる。
- ③ 文学研究科の総合心理学専攻の他の領域(心理学領域・教育心理学領域・臨床教育学領域)の学生及びその他の専攻(文化歴史学専攻・文学言語学専攻)の学生も、総合心理学専攻学校教育学領域で夜間に開講される授業科目を履修することができる。

したがって、文学研究科では、総合心理学専攻(学校教育学領域)を中心に、大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づき昼夜間に教育を行う。

この教育方法については以下のとおり行われる。

1. 標準修業年限の特例

文学研究科においては、標準修業年限を短縮することはこれを行わず、入学前に修得した単位を認定して修了必要単位に算入することはこれを行わない。総合心理学専攻学校教育学領域においても、この点で変わるところはない。

2. 履修指導の方法

総合心理学専攻学校教育学領域においては、入学に際して、総合心理学専攻としてのオリエンテーションに加え、学校教育学領域としての教務に関するオリエンテーションを実施するとともに、2 キャンパスの利用の仕方、授業時間割の設定の仕方、教員からの指導の受け方等を説明指導する。また、学生個人に対する指導は、学生が選択する研究演習の指導教員によって行われる。1 年次は、学習上の指導やアドバイスを、2 年次は、学習指導に加えて修士論文作成のための助言や指導を行う。

3. 授業の実施方法

文学研究科の授業は、1 時限を 90 分とし、月曜～金曜の昼間時間帯（第 1～5 時限）に行われるが、総合心理学専攻学校教育学領域では、月曜～金曜の夜間時間帯（第 6・7 時限）を主として利用し、土曜日（第 1～7 時限）における開講も視野に収めている。

授業時間は次のとおりである。

<月曜日～金曜日>	<土曜日> (西宮上ヶ原キャンパス)	<土曜日> (大阪梅田キャンパス)
第 1 時限 9:00～10:30 (チャペルアワー 10:35～11:05)	第 1 時限 9:10～10:40	第 1 時限 9:00～10:30
第 2 時限 11:10～12:40	第 2 時限 10:50～12:20	第 2 時限 10:30～12:00
第 3 時限 13:30～15:00	第 3 時限 13:10～14:40	第 3 時限 13:00～14:30
第 4 時限 15:10～16:40	第 4 時限 14:50～16:20	第 4 時限 14:30～16:00
第 5 時限 16:50～18:20	第 5 時限 16:30～18:00	第 5 時限 16:00～17:30
第 6 時限 18:30～20:00	第 6 時限 18:00～19:30	第 6 時限 17:30～19:00
第 7 時限 20:00～21:30	第 7 時限 19:30～21:00	第 7 時限 19:00～20:30

授業の実施場所は、社会人にとっても利便性の高い、大阪の中心部にある梅田アプローチタワーの 14 階(1218.3 m²)を大阪梅田キャンパスとして、ここに教室などの教育施設を設置している。

4. 教員の負担の程度

文学研究科総合心理学専攻博士課程前期課程は 18 名の専任教員を擁するが、学校教育学領域を主体となって担うのはこのうちの 4 名となる。この 4 名が中心となって研究演習や

授業科目を担当するが、授業科目の内容充実と多様性のために、非常勤講師を採用し、さらに総合心理学専攻の他の領域、特に臨床教育学領域の専任教員による協力体制が確立されており、授業実施や学生指導における教員の過負担を未然に避けている。

5. 図書館・情報処理施設等の利用方法

大阪梅田キャンパスに、専用の図書資料室、パソコン利用コーナー、共同研究室を整備するとともに、西宮上ヶ原キャンパスにも同様の設備を設置している。さらに西宮上ヶ原キャンパスの大学図書館を利用することが可能であり、また直接西宮上ヶ原キャンパスに出向かなくても、希望の図書・資料を選定し、配送を受けることで利用できるようにしている。

6. 学生の厚生に対する配慮

大阪梅田キャンパスには、教室や図書資料室、パソコン利用コーナー、共同研究室等の教育施設をはじめ、学生控室、教員から各種アドバイスを受ける個人指導室、各種事務サービスを受ける専用事務室、健康上の問題が発生した場合の近隣病院への連携サービスなど、学生の厚生サービスに対応できるよう配慮している。

7. 職員の配置

大阪梅田キャンパスには、専用の事務室を設け、専任事務職員 2 名、契約職員 2 名を置き、それ以外に図書業務や教材準備、授業準備のために委託職員を 4 名配置している。また、西宮上ヶ原キャンパスの事務室には、専任事務職員を 2 名置き、それ以外に図書業務や教材準備、授業準備のために教務補佐 2 名、アルバイト職員を 2 名配置している。

8. 入学者選抜の概要

文学研究科総合心理学専攻の入学試験は、正規学生（一般）と特別学生（社会人）の形態を用意しており、優れた学生を確保するため、9 月（第 1 次）と 3 月（第 2 次）の 2 回にわたって行われる。

これは総合心理学専攻の学校教育学領域で学ぼうとする現職の教員に対する配慮を含むものである。学校現場において教鞭を執り校務を果たす場合に、学期始めに先立つこと半年にして入学を確定することで、それを計画的に進められるよう配慮したものであり、また一方では新学期を前にして状況を確認してからも進学の道を確認させるためでもある。

入学試験は、文学研究科総合心理学専攻で行い、正規学生（一般）としては専門外国語と専門基礎科目・専門科目、特別学生（社会人）としては専門外国語と専門基礎科目の試験を行い、これに面接評価を加えて合否判定を行う。

X I. 自己点検・評価

関西学院大学は、1994 年（平成 6 年）、1997 年（平成 9 年）、2000 年（平成 12 年）、2003 年（平成 15 年）に、全学的な自己点検・評価の報告書として「白書」を刊行してきたが、PDCA サイクルを一層強化するため、2004 年度（平成 16 年度）に従来とは一線を画した「新たな自己点検・

評価」の制度構築に取り組んだ。

「新たな自己点検・評価」では、法人自己評価委員会、高中部自己評価委員会を新設し、大学自己評価委員会と合わせて3つの委員会を統括する関西学院評価推進委員会を設立した。評価項目も全面的に見直し、大学と大学院それぞれにおいて財団法人大学基準協会の項目を基礎とした新たな評価項目を定めた。そして、大・中項目ごとに「達成すべき目標」を定め、小項目ごとにできるだけ指標を設定し、目標の達成度を複数の指標によって測ることができるようにした。評価項目数(小項目)は、大学では90、大学院では58となっている。

2005年度(平成17年度)には、各学部・研究科自己評価委員会などが新たな制度に沿って自己点検・評価を行い、その結果を評価専門委員会と評価情報分析室が点検し、各自己評価委員会が修正・追加したものを編集して自己点検・評価報告書にまとめた。本学は同報告書をウェブ上で公表するとともに、これに基づいて2006年度(平成18年度)、財団法人大学基準協会にて認証評価を受けている。

なお、指標に関するデータをウェブで見ることができる「関西学院評価指標データベース」(https://www.asp-user.jp/jmaac.kwangaku/000_index.asp)を社団法人日本能率協会と共同で開発し、2005年(平成17年)6月に学内に開示した。

2006年度(平成18年度)以降の自己点検・評価については、原則として毎年度、各学部・部局及び自己評価委員会が進捗状況報告書を作成して評価推進委員会に提出し、学外者を含む評価専門委員会などが学内第三者機関として点検を行って、改善すべき点があれば各部局に助言・勧告を行う予定である。

XII. 情報の提供

教育研究活動などの状況に関する情報提供は、大学院要覧及びホームページを通じて行われている。これらは研究演習及び講義科目・研究科目の内容を公開することを中心とするが、随時行われる研究会や講演などについては、研究科委員会を通じて周知し、また掲示などによって、その徹底をはかっている。

また進学希望者には、学部生対象の説明会を5月に二度にわたり実施し、その他、入試要項をホームページに掲載し、一般の受験生への対応を行い、要請があれば過去の試験問題も公表している。

XIII. 教員の資質の維持向上の方策

日常的に専門分野に関わらず教員相互で学生指導について意見交換を行っているが、同時に学生が指導教員の担当する研究演習以外の研究演習を選択科目として履修することを奨励し、学生の目を通して教員の指導力を比較評価する体制を整えている。

この他、合同での研究演習の開催や、近接性の高い専門分野の研究演習間での研究発表会や専攻(領域)における修士論文・博士論文の講評会などを通じて、教員が文学研究科全体の枠組みの中での相対評価を受けることで、その資質の維持向上をはかっている。

資料目次

資料1 文学研究科組織改編図(10専攻の廃止と3専攻の設置)

資料2 文学研究科の教育課程と人材養成の概念図

資料3 文学研究科において授与する学位

資料4 文学研究科の社会との連携

資料5 履修モデル

資料6 博士論文作成プロセス(最短のケース)

資料7 大学院生の学習研究スペース(省略)

資料8 図書・雑誌・視聴覚資料増加予想

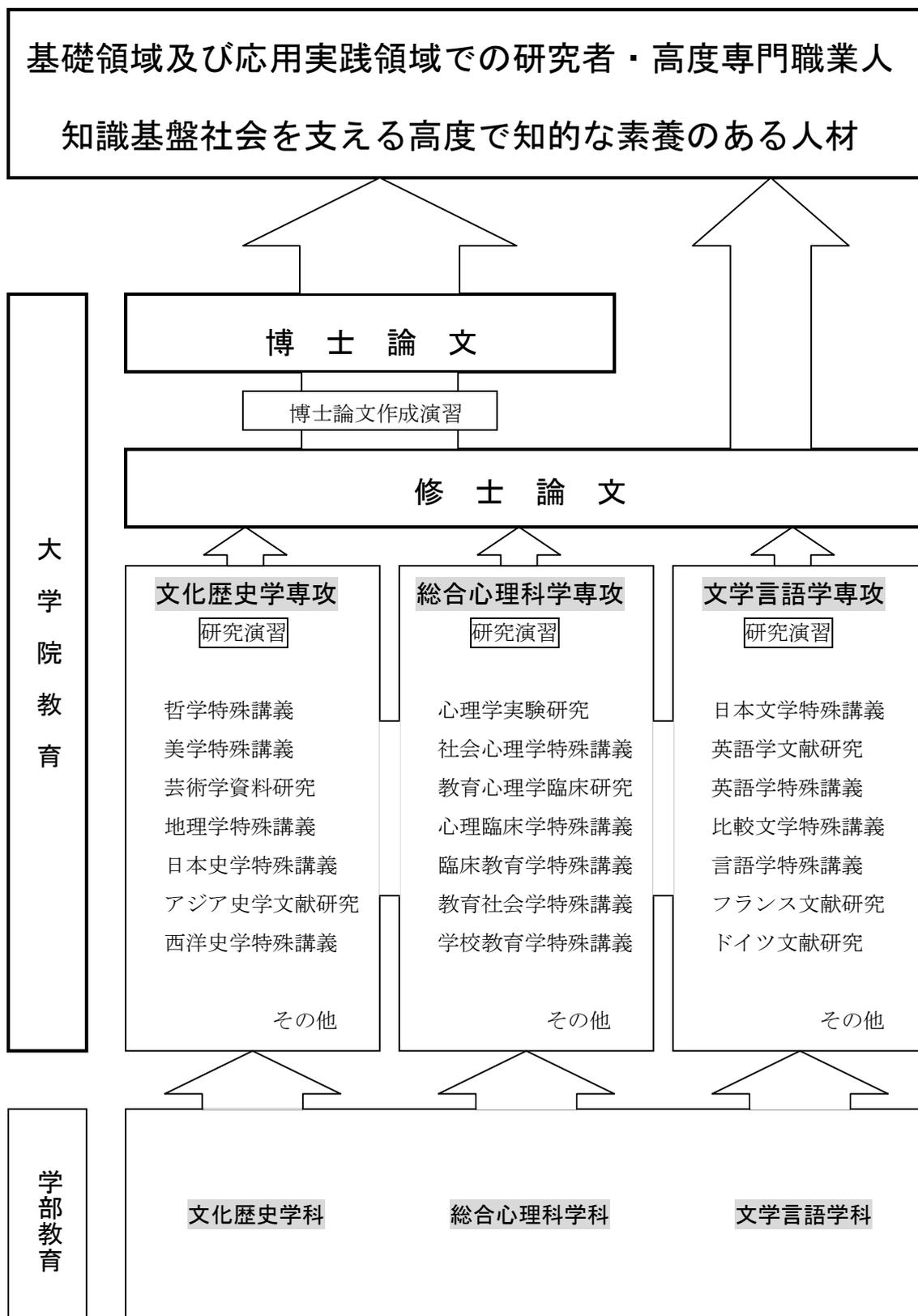
資料9 研究雑誌一覧

資料10 改編後の文学部と文学研究科の組織関係

文学研究科組織改編図(10 専攻の廃止と 3 専攻の設置)



文学研究科の教育課程と人材養成の概念図



文学研究科において授与する学位

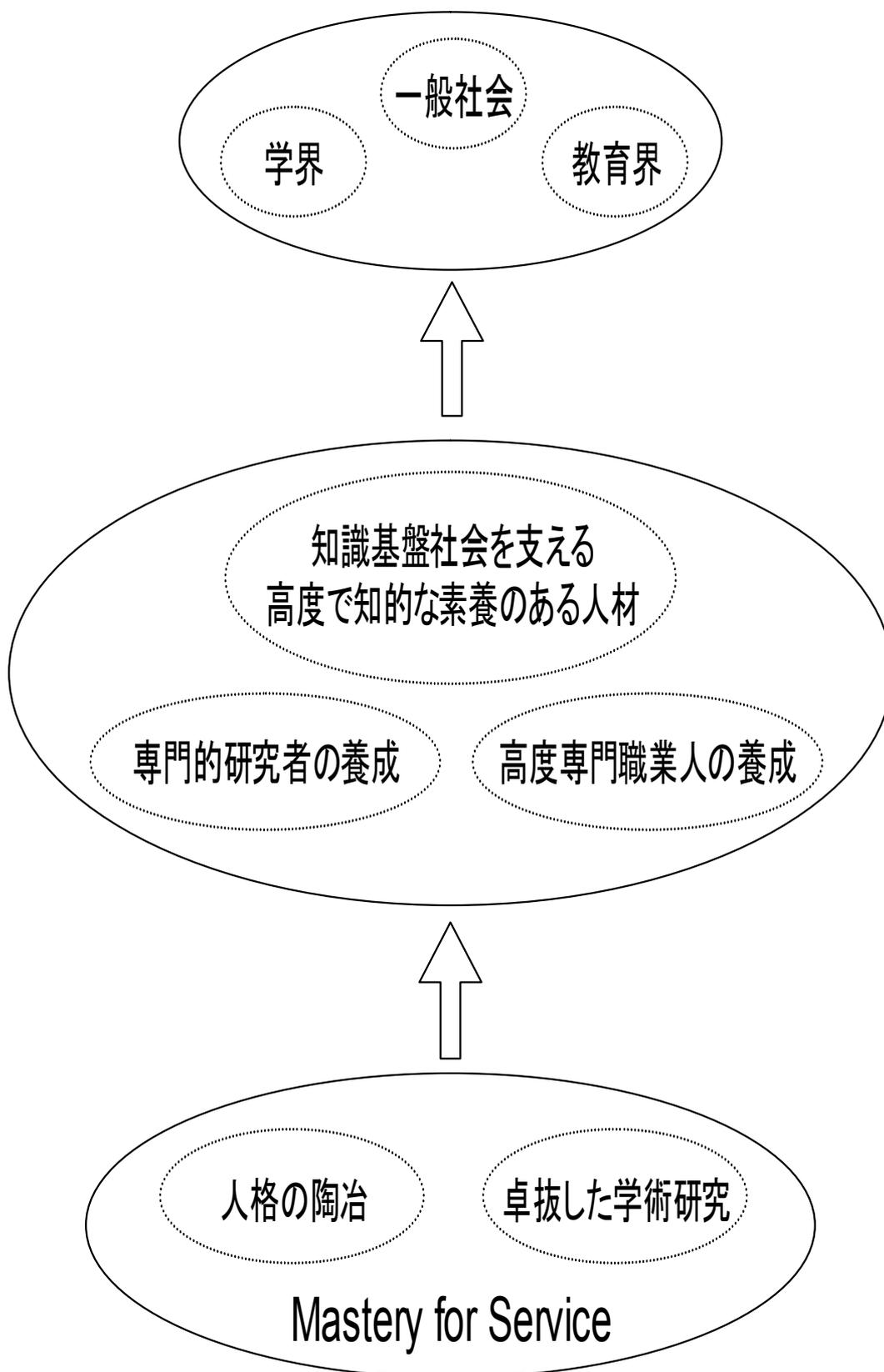
1. 博士課程前期課程

専攻名	学位
文化歴史学専攻	修士（哲学）
	修士（美学）
	修士（芸術学）
	修士（歴史学）
	修士（地理学）
総合心理科学専攻	修士（心理学）
	修士（教育心理学）
	修士（教育学）
	修士（学校教育学）
文学言語学専攻	修士（文学）
	修士（言語学）

2. 博士課程後期課程

専攻名	学位
文化歴史学専攻	博士（哲学）
	博士（美学）
	博士（芸術学）
	博士（歴史学）
	博士（地理学）
総合心理科学専攻	博士（心理学）
	博士（教育心理学）
	博士（教育学）
文学言語学専攻	博士（文学）
	博士（言語学）

文学研究科の社会との連携



履修モデル

【文学研究科博士課程前期課程】

文化歴史学専攻（哲学倫理学領域）

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
哲学研究演習 (2 単位)	哲学研究演習 (2 単位)	哲学研究演習 (2 単位)	哲学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
哲学特殊講義 (2 単位)	哲学特殊講義 (2 単位)	哲学特殊講義 (2 単位)	哲学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
哲学史特殊講義 (2 単位)	哲学史特殊講義 (2 単位)	宗教哲学特殊講義 (2 単位)	宗教哲学特殊講義 (2 単位)	
美学特殊講義 (2 単位)	倫理学特殊講義 (2 単位)			
哲学文献研究 (2 単位)	哲学文献研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数：10 単位	単位数：10 単位	単位数：6 単位	単位数：6 単位	計 32 単位

文化歴史学専攻（美学芸術学領域）

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
美学芸術学研究演習 (2 単位)	美学芸術学研究演習 (2 単位)	美学芸術学研究演習 (2 単位)	美学芸術学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
美学特殊講義 (2 単位)	美学特殊講義 (2 単位)	美学特殊講義 (2 単位)	美学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
芸術学特殊講義 (2 単位)	芸術学特殊講義 (2 単位)			
		芸術史特殊講義 (2 単位)	芸術史特殊講義 (2 単位)	
芸術学資料研究 (2 単位)	芸術学資料研究 (2 単位)	芸術学資料研究 (2 単位)	芸術学資料研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数：8 単位	単位数：8 単位	単位数：8 単位	単位数：8 単位	計 32 単位

文化歴史学専攻 (地理学地域文化学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
地理学地域文化学研究 演習 (2 単位)	地理学地域文化学研究 演習 (2 単位)	地理学地域文化学研究 演習 (2 単位)	地理学地域文化学研 究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
地理学特殊講義 (2 単位)	地理学特殊講義 (2 単位)			特殊講義 科目 16 単位
地域研究特殊講義 (2 単位)	地域研究特殊講義 (2 単位)	地域研究特殊講義 (2 単位)	地域研究特殊講義 (2 単位)	
地域文化学特殊講義 (2 単位)	地域文化学特殊講義 (2 単位)			
地理学地域文化学資料 研究 (2 単位)	地理学地域文化学資料 研究 (2 単位)	地理学地域文化学資料 研究 (2 単位)	地理学地域文化学資 料研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 10 単位	単位数 : 10 単位	単位数 : 6 単位	単位数 : 6 単位	計 32 単位

文化歴史学専攻 (日本史学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
日本史学研究演習 (2 単位)	日本史学研究演習 (2 単位)	日本史学研究演習 (2 単位)	日本史学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
日本史学特殊講義 (2 単位)	日本史学特殊講義 (2 単位)	日本史学特殊講義 (2 単位)	日本史学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)			
日本古文書学 (2 単位)	日本考古学特殊講義 (2 単位)			
日本史学文献研究 (2 単位)	日本史学文献研究 (2 単位)	日本史学文献研究 (2 単位)	日本史学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 10 単位	単位数 : 10 単位	単位数 : 6 単位	単位数 : 6 単位	計 32 単位

文化歴史学専攻 (アジア史学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
アジア史学研究演習 (2 単位)	アジア史学研究演習 (2 単位)	アジア史学研究演習 (2 単位)	アジア史学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
		アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)	
西洋史学特殊講義 (2 単位)	西洋史学特殊講義 (2 単位)			
アジア史学文献研究 (2 単位)	アジア史学文献研究 (2 単位)	アジア史学文献研究 (2 単位)	アジア史学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

文化歴史学専攻 (西洋史学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
西洋史学研究演習 (2 単位)	西洋史学研究演習 (2 単位)	西洋史学研究演習 (2 単位)	西洋史学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
西洋史学特殊講義 (2 単位)	西洋史学特殊講義 (2 単位)	西洋史学特殊講義 (2 単位)	西洋史学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
アジア史学特殊講義 (2 単位)	アジア史学特殊講義 (2 単位)			
西洋考古学特殊講義 (2 単位)	西洋考古学特殊講義 (2 単位)			
西洋史学文献研究 (2 単位)	西洋史学文献研究 (2 単位)	西洋史学文献研究 (2 単位)	西洋史学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 10 単位	単位数 : 10 単位	単位数 : 6 単位	単位数 : 6 単位	計 32 単位

総合心理学専攻 (心理学領域①)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 8 単位
		心理学実験研究 (2 単位)	心理学実験研究 (2 単位)	実験実習 科目 4 単位
心理学特殊研究 (2 単位)	心理学特殊研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
心理学臨床研究 (2 単位)	心理学臨床研究 (2 単位)	心理学臨床研究 (2 単位)	心理学臨床研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

総合心理学専攻 (心理学領域②)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	心理学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 8 単位
行動科学研究法 A (2 単位)		統計基礎理論 (2 単位)		特殊講義 科目 4 単位
心理学実験研究 (2 単位)	心理学実験研究 (2 単位)	心理臨床学臨床研究 (2 単位)	心理臨床学臨床研究 (2 単位)	実験実習 科目 8 単位
心理学臨床研究 (2 単位)	心理学臨床研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数 : 10 単位	単位数 : 8 単位	単位数 : 8 単位	単位数 : 6 単位	計 32 単位

総合心理学専攻 (教育心理学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
教育心理学研究演習 (2 単位)	教育心理学研究演習 (2 単位)	教育心理学研究演習 (2 単位)	教育心理学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
教育心理学特殊講義 (2 単位)	教育心理学特殊講義 (2 単位)	教育心理学特殊講義 (2 単位)	教育心理学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
心理学特殊講義 (2 単位)	心理学特殊講義 (2 単位)			
		心理臨床学特殊講義 (2 単位)	心理臨床学特殊講義 (2 単位)	
教育心理学臨床研究 (2 単位)	教育心理学臨床研究 (2 単位)	心理臨床学臨床研究 (2 単位)	心理臨床学臨床研究 (2 単位)	実験実習 科目 8 単位
				研究科目 0 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

総合心理学専攻 (臨床教育学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
臨床教育学研究演習 (2 単位)	臨床教育学研究演習 (2 単位)	臨床教育学研究演習 (2 単位)	臨床教育学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
臨床教育学特殊講義 (2 単位)	臨床教育学特殊講義 (2 単位)	臨床教育学特殊講義 (2 単位)	臨床教育学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 24 単位
教育史特殊講義 (2 単位)	教育史特殊講義 (2 単位)	教育社会学特殊講義 (2 単位)	教育社会特殊講義 (2 単位)	
教育哲学特殊講義 (2 単位)	教育哲学特殊講義 (2 単位)	教育心理学特殊講義 (2 単位)	教育心理学特殊講義 (2 単位)	
				研究科目 0 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

総合心理学専攻 (学校教育学領域)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
学校教育学研究演習 (2 単位)	学校教育学研究演習 (2 単位)	学校教育学研究演習 (2 単位)	学校教育学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
学校教育学特殊講義 (2 単位)	学校教育学特殊講義 (2 単位)	学校教育学特殊講義 (2 単位)	学校教育学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 24 単位
実践教育学特殊講義 (2 単位)	実践教育学特殊講義 (2 単位)	学校教育学特殊講義 (2 単位)	学校教育学特殊講義 (2 単位)	
実践教育学特殊講義 (2 単位)	実践教育学特殊講義 (2 単位)	教育社会学特殊講義 (2 単位)	教育社会学特殊講義 (2 単位)	
				研究科目 0 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

文学言語学専攻 (日本文学日本語学領域①)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
日本文学研究演習 (2 単位)	日本文学研究演習 (2 単位)	日本文学研究演習 (2 単位)	日本文学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
日本文学特殊講義 (2 単位)	日本文学特殊講義 (2 単位)	日本文学特殊講義 (2 単位)	日本文学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
比較文学特殊講義 (2 単位)	比較文学特殊講義 (2 単位)	日本語学特殊講義 (2 単位)	日本語学特殊講義 (2 単位)	
		中国文学特殊講義 (2 単位)	中国文学特殊講義 (2 単位)	
日本文学文献研究 (2 単位)	日本文学文献研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

文学言語学専攻（日本文学日本語学領域②）

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
日本語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	日本語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	日本語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	日本語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
日本語学特殊講義 (2 単位)	日本語学特殊講義 (2 単位)			特殊講義 科目 16 単位
日本語学特殊講義 (2 単位)	日本語学特殊講義 (2 単位)			
日本文学特殊講義 (2 単位)	日本文学特殊講義 (2 単位)	言語学特殊講義 (2 単位)	言語学特殊講義 (2 単位)	
日本語学文献研究 (2 単位)	日本語学文献研究 (2 単位)	日本語学文献研究 (2 単位)	日本語学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数：10 単位	単位数：10 単位	単位数：6 単位	単位数：6 単位	計 32 単位

文学言語学専攻（英米文学英語学領域①）

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
イギリス文学研究演習 (2 単位)	イギリス文学研究演習 (2 単位)	イギリス文学研究演習 (2 単位)	イギリス文学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
イギリス文学特殊講義 (2 単位)	イギリス文学特殊講義 (2 単位)	イギリス文学特殊講義 (2 単位)	イギリス文学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
ラテン語 A I (2 単位)	ラテン語 A II (2 単位)	アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	
		比較文学特殊講義 (2 単位)	比較文学特殊講義 (2 単位)	
イギリス文学文献研究 (2 単位)	イギリス文学文献研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数：8 単位	単位数：8 単位	単位数：8 単位	単位数：8 単位	計 32 単位

文学言語学専攻 (英米文学英語学領域②)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
アメリカ文学研究演習 (2 単位)	アメリカ文学研究演習 (2 単位)	アメリカ文学研究演習 (2 単位)	アメリカ文学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	アメリカ文学特殊講義 (2 単位)	
Research Methods & Writing (2 単位)	Research Methods & Writing (2 単位)			特殊講義 科目 16 単位
比較文学特殊講義 (2 単位)	比較文学特殊講義 (2 単位)			
アメリカ文学文献研究 (2 単位)	アメリカ文学文献研究 (2 単位)	アメリカ文学文献研究 (2 単位)	アメリカ文学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 10 単位	単位数 : 10 単位	単位数 : 6 単位	単位数 : 6 単位	計 32 単位

文学言語学専攻 (英米文学英語学領域③)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
英語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	英語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	英語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	英語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
英語学特殊講義 (2 単位)	英語学特殊講義 (2 単位)	英語学特殊講義 (2 単位)	英語学特殊講義 (2 単位)	
		言語学特殊講義 (2 単位)	言語学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 16 単位
ギリシア語 A (2 単位)	ギリシア語 B (2 単位)			
英語学文献研究 (2 単位)	英語学文献研究 (2 単位)	英語学文献研究 (2 単位)	英語学文献研究 (2 単位)	研究科目 8 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

文学言語学専攻 (フランス文学フランス語学領域①)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
フランス文学研究演習 (2 単位)	フランス文学研究演習 (2 単位)	フランス文学研究演習 (2 単位)	フランス文学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
フランス文学特殊講義 (2 単位)	フランス文学特殊講義 (2 単位)	フランス文学特殊講義 (2 単位)	フランス文学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
比較文学特殊講義 (2 単位)	比較文学特殊講義 (2 単位)	フランス語学特殊講義 (2 単位)	フランス語学特殊講義 (2 単位)	
		フランス文学史特殊講義 (2 単位)	フランス文学史特殊講義 (2 単位)	
フランス文献研究 (2 単位)	フランス文献研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数 : 8 単位	単位数 : 8 単位	単位数 : 8 単位	単位数 : 8 単位	計 32 単位

文学言語学専攻 (フランス文学フランス語学領域②)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
フランス語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	フランス語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	フランス語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	フランス語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
フランス語学特殊講義 (2 単位)	フランス語学特殊講義 (2 単位)	フランス語学特殊講義 (2 単位)	フランス語学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
		言語学特殊講義 (2 単位)	言語学特殊講義 (2 単位)	
ラテン語 A I (2 単位)	ラテン語 A II (2 単位)	ラテン語 B I (2 単位)	ラテン語 B II (2 単位)	
フランス文献研究 (2 単位)	フランス文献研究 (2 単位)			研究科目 4 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

文学言語学専攻 (ドイツ文学ドイツ語学領域①)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
ドイツ文学研究演習 (2 単位)	ドイツ文学研究演習 (2 単位)	ドイツ文学研究演習 (2 単位)	ドイツ文学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
ドイツ文学特殊講義 (2 単位)	ドイツ文学特殊講義 (2 単位)	ドイツ文学特殊講義 (2 単位)	ドイツ文学特殊講義 (2 単位)	
比較文学特殊講義 (2 単位)	比較文学特殊講義 (2 単位)	ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	特殊講義 科目 20 単位
		ドイツ文化特殊講義 (2 単位)	ドイツ文化特殊講義 (2 単位)	
ドイツ文献研究 (2 単位)		ドイツ文献研究 (2 単位)		研究科目 4 単位
単位数 : 8 単位	単位数 : 6 単位	単位数 : 10 単位	単位数 : 8 単位	計 32 単位

文学言語学専攻 (ドイツ文学ドイツ語学領域②)

1 年次		2 年次		必要修得 単位数
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
ドイツ語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	ドイツ語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	ドイツ語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	ドイツ語学研究演習 または 言語科学研究演習 (2 単位)	演習科目 8 単位
ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	ドイツ語学特殊講義 (2 単位)	
ドイツ文化特殊講義 (2 単位)	ドイツ文化特殊講義 (2 単位)			特殊講義 科目 20 単位
言語学特殊講義 (2 単位)	言語学特殊講義 (2 単位)	ギリシア語 A (2 単位)	ギリシア語 B (2 単位)	
		ドイツ文献研究 (2 単位)	ドイツ文献研究 (2 単位)	研究科目 4 単位
単位数 : 8 単位	計 32 単位			

【文学研究科博士課程後期課程】

文化歴史学専攻

(哲学倫理学領域・美学芸術学領域・地理学地域文化学領域・日本史学領域・アジア史学領域・西洋史学領域)

総合心理学専攻

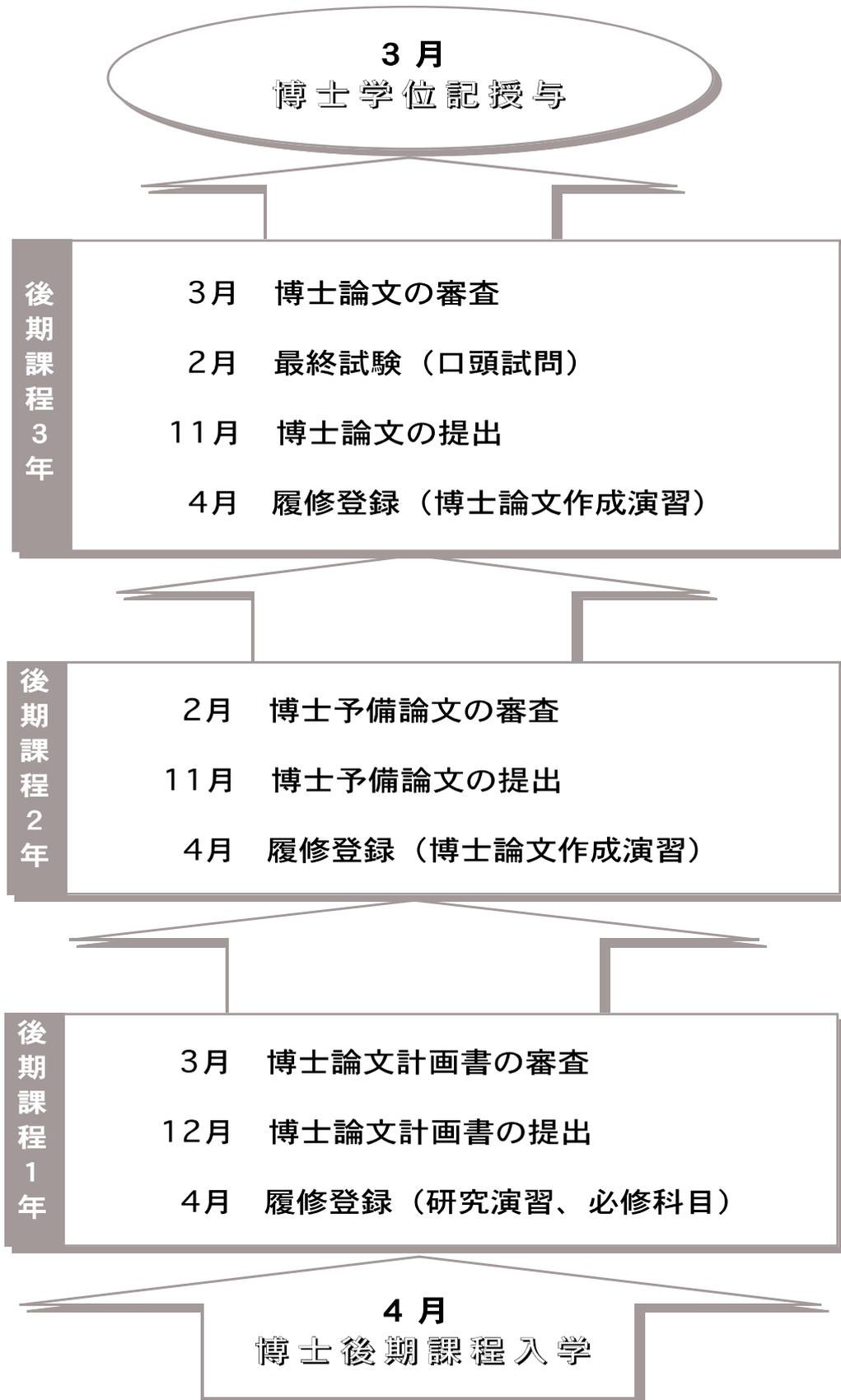
(心理学領域・教育心理学領域・臨床教育学領域)

文学言語学専攻

(日本文学日本語学領域・英米文学英語学領域・フランス文学フランス語学領域・ドイツ文学ドイツ語学領域)

第1年次	春学期	研究演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
	秋学期	研究演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
第2年次	春学期	博士論文作成演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
	秋学期	博士論文作成演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
第3年次	春学期	博士論文作成演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
	秋学期	博士論文作成演習 (2単位)	特別研究 (研究指導)
必要修得単位数		計12単位	

博士論文作成プロセス（最短のケース）



図書・雑誌・視聴覚資料増加予想

文学研究科図書・雑誌・視聴覚資料増加予想

文学研究科全体	和書	洋書	図書合計 (冊)	和雑誌	洋雑誌	雑誌合計 (種)	視聴覚 (点)
2005年度(平成17年度)	236,611	178,455	415,066	2,138	2,000	4,138	73,739
2006年度(平成18年度)	240,633	181,488	422,121	2,159	2,020	4,179	74,993
2007年度(平成19年度)開設年度	244,724	184,573	429,297	2,180	2,040	4,220	76,268
2008年度(平成20年度)	248,884	187,711	436,595	2,202	2,060	4,262	77,565
2009年度(平成21年度)完成年度	253,115	190,902	444,017	2,239	2,080	4,319	78,884

専攻別増加予想

文化歴史学専攻	和書	洋書	図書合計 (冊)	和雑誌	洋雑誌	雑誌合計 (種)	視聴覚 (点)
2005年度(平成17年度)	122,321	75,622	197,943	1,054	838	1,892	63,253
2006年度(平成18年度)	124,400	76,908	201,308	1,064	846	1,910	64,328
2007年度(平成19年度)開設年度	126,515	78,215	204,730	1,075	854	1,929	65,422
2008年度(平成20年度)	128,666	79,545	208,211	1,086	863	1,949	66,534
2009年度(平成21年度)完成年度	130,853	80,897	211,750	1,104	872	1,976	67,665

総合心理学専攻	和書	洋書	図書合計 (冊)	和雑誌	洋雑誌	雑誌合計 (種)	視聴覚 (点)
2005年度(平成17年度)	38,069	22,477	60,546	421	547	968	2,304
2006年度(平成18年度)	38,716	22,859	61,575	425	552	977	2,343
2007年度(平成19年度)開設年度	39,374	23,248	62,622	429	558	987	2,382
2008年度(平成20年度)	40,043	23,643	63,686	433	564	997	2,422
2009年度(平成21年度)完成年度	40,724	24,045	64,769	437	570	1,007	2,463

文学言語学専攻	和書	洋書	図書合計 (冊)	和雑誌	洋雑誌	雑誌合計 (種)	視聴覚 (点)
2005年度(平成17年度)	79,149	82,437	161,586	663	615	1,278	8,193
2006年度(平成18年度)	80,495	83,838	164,333	670	621	1,291	8,332
2007年度(平成19年度)開設年度	81,863	85,096	166,959	677	627	1,304	8,474
2008年度(平成20年度)	83,255	86,543	169,798	684	633	1,317	8,618
2009年度(平成21年度)完成年度	84,670	88,014	172,684	691	639	1,330	8,765

※和書・洋書・視聴覚資料に関しては、過去の増加比率の推移および、今後の予算状況から、前年度比1.7%の増加を見込んで計算した。

雑誌に関しては、基本雑誌がすでに充実していること、オンラインジャーナルの契約数が伸びていることを考慮し、前年度比1%増を見込んで計算した。

●文学言語学専攻

タイトル／出版社	分類番号	所蔵巻号	所蔵年	継続	和洋
國語學/國語學會編.--1輯(昭23.10)-200集(平12.3);51巻1号(2000.6)-55巻4号(2004.10)=通巻201号(2000.6)-219号(2004.10).--秋田屋,1948-2004	450	1-200;51-55	1948-2000;2000-2004		和
計量国語学/計量国語学会[編].--1号(昭32.5)-80(1977.3);11巻1号(1977.6)-.--計量国語学会,1957-.	450	1-80;11(7-8),12-24,25(1-4)	1957-1977;1978-2006	+	和
言語研究 / 日本言語學會[編].--1號(昭14.1)-.--三省堂,1939-.	450	26-27,37-128	1954-2005	+	和
キリスト教文学研究/キリスト教文学研究編集委員会.--創刊号(1983)-.--日本キリスト教文学会,1983-.	850	1-22	1983-2005	+	和
古代文学/古代文学会.--1号(昭36.12)-.--桜楓社.	850	1-25	1961-1986		和
日本近代文学/日本近代文学会[編].--1集((昭39.11)-.--三省堂,1964-.	850	1-73	1964-2005	+	和
Publications of the Modern Language Association of America.--[Reprint ed.].--Vol.4,no.1(Jan./Mar.[1888])-v.42,no.4(Dec.1927).--Kraus Reprint,1960-1966.	400	4-20	1888-1905		洋
Linguistic analysis.--Vol.1 (1975) -.--Elsevier.	410	1-20	1975-1990		洋
American literature : a journal of literary history, criticism, and bibliography.--Vol.1(1929)-.--Duke University Press,1929-.	810	1-38,39(2-4),40-47,78(1)	1929-2006	+	洋
The Mississippi quarterly : the journal of southern culture.--Mississippi State Univesity.	810	32-54	1978-2001		洋
Revue des deux mondes. Seconde période.--T.1 (janv.1856)-t.108(déc.1873).--Bureau de la revue des deux mondes.	840	1-108	1856-1873		洋
Les Cahiers naturalistes / Société littéraire des amis d'Emile Zola.--[Reprint ed.].--Vol.1 (1955)-.--Dawson-France S.A.	840	1-11	1955-1965		洋
La Nouvelle revue française.--No.1(Nov.1908)- ; T.1,no 1 (févr.1909)-t.57,no 352(juin 1943).--NRF,1909-1943.	840	1-31	1909-1943		洋
Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte.--1.Jahrg.,Heft 1(1923)-.--Max Niemeyer,1923-.	830	1-79	1923-2005	+	洋
ゲーテ年鑑/日本ゲーテ協會[編].--1巻(1932)-;1巻(1959)-=通刊12巻(1959)-.--南江堂書店,1932.5-.	830	1;1-47	1932-1932;1959-2005	+	和
Text und Kritik:Zeitschrift für Literatur.--(1962)-.	830	125-169	1995-2006	+	洋
Deutsch als Fremdsprache:Zeitschrift zur Theorie und Praxis des Deutschunterrichts für Ausländer/ Herder Institut.--(1964)-.--VEB Verlag Enzyklopädie.	430	1-20,22-24,36-42,43(1)	1964-2006	+	洋

改編後の文学部と文学研究科の組織関係

文学部	文学研究科博士課程前期課程	文学研究科博士課程後期課程
文化歴史学科 哲学倫理学専修 美学芸術学専修 日本史学専修 アジア史学専修 西洋史学専修 地理学地域文化学専修	文化歴史学専攻 哲学倫理学領域 美学芸術学領域 日本史学領域 アジア史学領域 西洋史学領域 地理学地域文化学領域	文化歴史学専攻 哲学倫理学領域 美学芸術学領域 日本史学領域 アジア史学領域 西洋史学領域 地理学地域文化学領域
総合心理科学科 心理学専修 教育心理学専修 臨床教育学専修	総合心理科学専攻 心理学領域 教育心理学領域 臨床教育学領域 学校教育学領域	総合心理科学専攻 心理学領域 教育心理学領域 臨床教育学領域
文学言語学科 日本文学日本語学専修 英米文学英語学専修 フランス文学フランス語学専修 ドイツ文学ドイツ語学専修	文学言語学専攻 日本文学日本語学領域 英米文学英語学領域 フランス文学フランス語学領域 ドイツ文学ドイツ語学領域	文学言語学専攻 日本文学日本語学領域 英米文学英語学領域 フランス文学フランス語学領域 ドイツ文学ドイツ語学領域